

平成25年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493400129	事業の開始年月日	平成19年6月1日
		指定年月日	平成25年6月1日
法人名	株式会社 ウイズネット		
事業所名	グループホーム みんなの家・横浜宮沢 3		
所在地	(246-0038) 神奈川県横浜市瀬谷区宮沢4-28-8		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成25年10月4日	評価結果 市町村受理日	平成26年3月10日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigo/w10/wpjDetails.aspx?JGNO=ST1493400129&SVCD=320&THNO=14100
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様のADL維持の為、ラジオ体操や健康体操・バルーン体操・太極拳体操を日替わりで行っている他、天気の良い日には近所の公園まで散歩に行ったり、コンビニエンスストアまで買い物に行ったりして、四季の移り変わりを五感で感じて頂いております。また、ご利用者様の意思を尊重して、習字や塗り絵などの個別レクにも取り組んでおります。この他にも、定期的にボランティアさんを招いてのイベントを定期的に関催しております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成25年11月8日	評価機関 評価決定日	平成26年1月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は相鉄いずみ野線いずみ野駅からバスに乗車「ひなた山第一」または「ひなた山バザール」バス停から徒歩5分程のところにあります。周辺は大型ホームセンターや団地、畑が混在した住宅地です。道路からは少し奥に入っているので落ち着いた静かな環境です。

<優れている点>

利用者の転倒事故を教訓として、安全対策にさらに力を入れています。ホーム長が外部のリスクマネジメントの勉強会に出席し、事業所内で伝達研修を行いました。事務室に転倒骨折防止のための具体的行動、対策指針を掲示して職員一人ひとりが利用者への介助の方法や見守ることへの意識を高めています。スタッフ会議で転倒に対するアセスメントを行ったり、転倒リスクの高い利用者居室の窓のサッシやタンスの角に衝撃吸収クッションを貼るなど、できることはすぐに取り入れています。利用者は職員の見守りの中で、日替わり体操や散歩を楽しみながらADL（日常生活動作）維持を図っています。

<工夫点>

介護計画に沿ったケアが実施できているか、生活記録にチェック欄を設けてモニタリングの際にわかりやすいようにしています。医療連携している看護師との連絡記録や服薬管理など医療に関する記録は「医療連携」ファイルで管理しています。記録の取り方やまとめ方を工夫して、利用者の支援に活かしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム みんなの家・横浜宮沢 3
ユニット名	1U

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『地域と共存した明るく楽しいホーム創り』を事業所理念に掲げ、管理者と職員が一丸となってレクや体操などを行っている	利用者本位のケア実現のための事業所理念「地域と共存した明るく楽しいホーム創り」を掲げて3年が経過しています。利用者のADL（日常生活動作）維持に行っている太極拳体操は、利用者の思いを具体化したものです。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同じ町内会に所属する系列ホームや、他社のグループホームの管理者との情報交換のばを定期的に設けている他、近隣住民の方とは、散歩時の挨拶など、日常的に交流している	散歩時に出会った地域の方々に挨拶をするなど日常的に交流しています。事業所行事の折は、地域ボランティアの協力を得ています。自治会に入会していますが、地域行事参加やもう一つの自治会との関わり方は今後の検討としています。	事業所が2つの自治会の境界地に位置していることもあり、地域との協力関係構築に苦慮されていますが、今後も地道な働きかけを通し、繋がりを深めていくことも期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所独自の新聞『宮沢 3 ネット通信』を発行し、地域の方へ配布している他、管理者が『認知症キャラバンメイト』を受講し、地域の方向けの新たな認知症についての知識を深めてもらう為の方法を模索中		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長や民生委員・ケアプラザの職員の方より、様々なアドバイスを受け、それを事業所に持ち帰り、スタッフと共に実践に向けて取り組んでいる	町内会長・民生委員・地域ケアプラザ職員の出席を得て、年6回定期的に運営推進会議を開催しています。防災についての取り組みや備蓄に関して出された意見やアドバイスを運営に反映させるよう努めています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時に区役所に出向いて、必要なアドバイスを受けたり、瀬谷区地域密着型サービス事業所連絡会に出席し、区内の他事業所とも情報交換を行っている	ホーム長が区の地域密着型サービス事業所連絡会の役員をしていることもあり、情報交換や利用者の状況に応じたアドバイスを受けたり区職員と良好な関係を築いています。利用者の担当ケースワーカーとも連携を密にしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『身体拘束ゼロケア』を掲げ、事業所内でも「身体拘束廃止委員会」を月1回開催して、身体拘束廃止に向けて取り組んでいる	「身体拘束ゼロケア」を掲げ、毎月のスタッフ会議時に身体拘束委員会を開催しています。言葉による行動制限を含め、全職員で意識を高めています。玄関は利用者の安全確保と防犯上の理由で電子錠管理をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	『身体拘束廃止委員会』の中でも虐待についての勉強会を行ない、虐待の防止に向けて取り組んでいる		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修に参加し、それを事業所内の研修等でフィードバックさせている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時に、疑問点や不安に思っている事をお尋ねし、可能な範囲でお答えして、ご家族様にご納得頂いている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会等で、ご家族様からの意見や要望を聞き、それらを事業所運営に反映させている	面会時や電話のほか、年6回の家族会や利用者の様子を伝える「一言通信」を毎月送付し、意見や要望を呼びかけています。食事の楽しみについての意見を検討し、外食を実施したことを家族会で報告しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で、職員からの意見を聞き、それらを事業所運営に反映させている	毎月の全職員対象のスタッフ会議のほか、連絡ノートを活用して職員の意見や提案を聞く機会を設けています。利用者対応など積極的に意見を取り入れて業務改善につなげています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と定期的に面談を行ない、職員1人ひとりが働きやすい事業所運営を行っている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	時々、フロアに入って職員の動きなどを見て、適宜アドバイスや指導を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	『瀬谷区地域密着型サービス事業所連絡会』に参加し、同業他社の管理者との情報交換等を行っている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	心配事や不安な事を傾聴し、不安の軽減をはかる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面談や、入居時にご家族様より心配事などを聞き、不安の軽減に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居して暫くの間は、ご本人様も不安な部分や、周囲に対して遠慮がある為、職員側から声かけを行ない、対応している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、ご利用者様が出来る事はやって頂き、生活の中での役割を担って頂いている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	半年に一回のケアプラン更新時に「ご家族様からの要望」ということでお聞きし、ケアプランを作成している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様によっては、入居前に親交があったご近所さんやご友人などが面会に来られている	入居前の近所の方や友人の訪問があり、その際は居室に事業所のイスを運んだり、お茶を出してもてなし、ゆっくりできるよう配慮しています。利用者の故郷が特集になった雑誌を用意したり、地元の銘菓で昔話を花を咲かせることもあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアの食席も、気の合うご利用者様同士になるように配慮している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	「退居者リスト」を用いてご家族様に定期的に手紙などを出している		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	定期的にあセスメント表を用いて、一人ひとりの要望の把握に努めている	普段から利用者に話しかけてコミュニケーションを図っています。入居直後は特に意識して配慮し、傾聴に努めています。情報は生活記録に落としています。利用者の思いや意向を尊重して、習字やぬり絵など個別のレクリエーションを行っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談などでご本人様やご家族様から聞き取りを行ない、把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状況によって、1人ひとりにあった声かけを行ない、その方に合った生活スタイルを実践していただいている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアカンファレンスを開催し、ご利用者様の状態把握や今後のケアの方向性などを話し合っている	本人や家族に希望を聞き、居室担当職員が中心にアセスメントして現状に即した介護計画を作成しています。計画に沿ったケアが実施できているか、生活記録にチェック欄を設けてモニタリングの際にわかりやすいようにしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランで用いているナンバリングを生活記録にも反映させている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在は行なっていないが、今後行えるように柔軟に対応していきたい		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	瀬谷区の区民活動センターで編み物やダンスなど様々な教室があり、ご利用者様がどの様にしたら参加出来るのか現在、模索中		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の往診の他、ご利用者様やご家族様の意向に沿って、外部受信にご家族様対応にて行われている	協力医療機関の定期的な往診のほか、入居前からのかかりつけ医の継続にも柔軟に対応しています。受診は家族が付き添いますが、事業所での様子をかかりつけ医に情報提供するなど、適切な医療を受けられるように支援しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の医療連携看護師の出勤日に、ご利用者様の個々の様子を報告し、必要に応じて、往診医等に連絡し、対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーや薬剤情報等、必要な情報を提供し、退院時には介護サマリー等必要な情報を頂く他、必要に応じて入院先の主治医や看護師・ソーシャルワーカーとの面談を行ない、対応している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じて、ご家族様との話し合いや、地域の方との話し合いの場を持ち、必要に応じて医師等に報告している	入居時に「重度化した場合に係る指針」に基づいて、説明しています。その後は利用者の状況に応じて家族と話し合っています。現在まで看取りの事例はありませんが、内部で勉強会を実施して意識づけを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、職員に周知徹底を図っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っているが、今後、地域の方にも参加して頂けるように、交渉中	年2回避難訓練を行っています。非常階段の外灯が暗いので付け替えを検討しています。訓練時の地域の方々の協力や呼びかけを行っていますが、参加までには至っていません。備蓄に関しては水や乾パンを確保しています。	災害時に備え、地域の方への訓練参加を継続して呼び掛けることが期待されます。備蓄に関しては職員と利用者の3日分程度の水や食品の確保や必要な備品の整備が期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	動作一つ一つを解りやすくきちんと丁寧に説明する他、ご利用者様の名前を呼ぶ時には、「～様(さん)」と呼ぶ。	居室への入室等では必ず声かけし、居室扉の小窓に目隠しをつける等、一人ひとりの人格の尊重やプライバシーに配慮しています。接遇に力を入れ、接遇研修に参加したホーム長が職員研修を実施し、毎日のミーティングでも注意喚起をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「～しませんか?」と話しかけ、ご本人様の意思を伺うようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活に支障のない範囲で就寝して頂き、起床は個別に対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後など、更衣する時の着衣の選択の他、個別に使いやすい化粧品などを使用している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話をしながら他のご利用者様と食事をされている他、下膳や食器拭きなどの家事援助を可能な範囲で参加して頂いている	メニューバランスや味付けは法人の管理栄養士が確認しています。調理専門職員が作った食事を各ユニットで利用者の着席に合わせて適温で配膳しています。食卓拭きや配膳に利用者も参加しています。行事食や外注食も実施し楽しめる工夫をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食部の栄養士が、栄養のバランスを考えた献立を作成している。その他に嗜好にあわせた飲み物を準備している。また、食事や水分摂取量を確認・記録を行なっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力医療機関の歯科医師や歯科衛生士からの指導やアドバイスの下、個別に行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を確認して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方に合った排泄ケアを行なっている	排泄表を丁寧に記録することで個人別の排泄のパターンを把握し、声かけや誘導を実施しています。排泄自立の方も多く、夜間のみおむつ使用、自室にポータブルトイレ設置などそれぞれの身体状況に合った支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に至った原因を探り、その方にあった予防策を実践している他、必要に応じて往診医に相談し、下剤等を処方して頂いている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ご利用者様の好みに応じて入浴剤を使用し、楽しく入浴出来るように心がけている。また、ADLが自立の方は、一人で入浴して頂き、定期的に声かけを行っている	週2回の入浴を基本とし、身体の状況に応じて足浴、清拭なども実施しています。1階浴室にはリフトを設置し、介護度の高い利用者も安全に入浴ができます。拒否のある方への言葉かけも工夫しています。入浴剤の色と香りを楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	使い慣れた寝具を使用してもらったり、ご利用者様1人ひとりの生活リズムを大切に、意思を尊重している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様の個別の服薬ファイルを開覧して把握に努めている他、気になる事は医師や薬剤師・医療連携看護師に相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中での、ご利用者様1人ひとりの役割を大切にしている他、趣味の再現の場を提供している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には行なえていないが、ご家族様の協力を得て、定期的に外出の機会を設けている	近隣の公園や施設玄関前の広いスペースで外気浴を楽しんでもらえるようにしています。家族の協力を得て定期的に外出する方もいます。桜の花見などのほかに、広域避難場所への散歩などの外出にも、計画的に取り組んでいます。	「四季の移り変わりを五感で感じてもらいたい」との考えを発展させ、玄関前に椅子を用意して外気浴をするなど、外気に触れることで心身の活性化に繋がるような取組みを検討することも期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様からの意向もあり、常時の所持は行っていないが、買い物に行った時など必要時に、必要な金額をその都度預かり金より支出し、対応している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様の要望により、必要時に電話をかけたり出来るように援助を行なったりしている他、手紙のやり取りを行なえるように支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁面は四季折々の飾り付けをご利用者様と職員が行っている。また、フロアや居室の温度管理についてはご利用者様の様子を見て、適宜調整している。また、フロアの照明についても直付の蛍光灯に替えた事により、明るくなっている	壁面装飾に工夫を凝らしています。職員と利用者が一緒に作った季節の貼り絵や外出時の写真、習字などの作品を飾っています。ソファでテレビを観たり、新聞を読む利用者もいます。換気に気をつけているので、気になる臭いはありません。	収納スペースがそれほど多くないという環境下で、物品の整理と管理にはホーム長と職員が工夫を重ねています。環境整備委員もいることから建物内の美化と整理整頓に継続した工夫が期待されます。
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室への自由な出入りと、自由に他のご利用者様への居室の訪問を勧めている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇やソファ・テレビ等、使い慣れた物を入居時にお持ちいただいたりしているほか、家族写真や、ご利用者様自身で撮った写真などを飾っている	入居時に利用者の馴染み深い品々を持参してもらい、写真や作品なども飾っています。衣類の整理や居室清掃など居室担当職員が利用者と一緒に整理整頓に努め、居心地よく過ごせるようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な箇所への手摺の設置の他、車椅子トイレの設置。壁の角やチェストの角など、転倒時に受傷リスクが高い箇所へのクッション材の設置。生活上、支障がない範囲での張り紙の設置		

平成25年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493400129	事業の開始年月日	平成19年6月1日
		指定年月日	平成25年6月1日
法人名	株式会社 ウイズネット		
事業所名	グループホーム みんなの家・横浜宮沢 3		
所在地	(246-0038) 神奈川県横浜市瀬谷区宮沢4-28-8		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成25年10月4日	評価結果 市町村受理日	平成26年3月10日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigo/w10/wp/Details.aspx?JGNO=ST1493400129&SVCD=320&THNO=14100>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の生活スタイルを尊重し、自尊心を傷つけないように心がけたケアを実践しております。また、ご利用者様の意思を尊重して、習字や塗り絵・折り紙などの個別レクにも取り組んでおります。この他にも、定期的にボランティアさんを招いてのイベントを定期的開催しております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成25年11月8日	評価機関 評価決定日	平成26年1月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム みんなの家・横浜宮沢 3
ユニット名	2U

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『地域と共存した明るく楽しいホーム創り』を事業所理念に掲げ、管理者と職員が一丸となってレクや体操などを行っている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同じ町内会に所属する系列ホームや、他社のグループホームの管理者との情報交換のばを定期的に設けている他、近隣住民の方とは、散歩時の挨拶など、日常的に交流している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所独自の新聞『宮沢 3 ネット通信』を発行し、地域の方へ配布している他、管理者が『認知症キャラバンメイト』を受講し、地域の方向けの新たな認知症についての知識を深めてもらう為の方法を模索中		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長や民生委員・ケアプラザの職員の方より、様々なアドバイスを受け、それを事業所に持ち帰り、スタッフと共に実践に向けて取り組んでいる		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時に区役所に出向いて、必要なアドバイスを受けたり、瀬谷区地域密着型サービス事業所連絡会に出席し、区内の他事業所とも情報交換を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『身体拘束ゼロケア』を掲げ、事業所内でも「身体拘束廃止委員会」を月1回開催して、身体拘束廃止に向けて取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	『身体拘束廃止委員会』の中でも虐待についての勉強会を行ない、虐待の防止に向けて取り組んでいる		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修に参加し、それを事業所内の研修等でフィードバックさせている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時に、疑問点や不安に思っている事をお尋ねし、可能な範囲でお答えして、ご家族様にご納得頂いている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会等で、ご家族様からの意見や要望を聞き、それらを事業所運営に反映させている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で、職員からの意見を聞き、それらを事業所運営に反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と定期的に面談を行ない、職員1人ひとりが働きやすい事業所運営を行っている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	時々、フロアに入って職員の動きなどを見て、適宜アドバイスや指導を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	『瀬谷区地域密着型サービス事業所連絡会』に参加し、同業他社の管理者との情報交換等を行っている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	心配事や不安な事を傾聴し、不安の軽減をはかる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面談や、入居時にご家族様より心配事などを聞き、不安の軽減に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居して暫くの間は、ご本人様も不安な部分や、周囲に対して遠慮がある為、職員側から声かけを行ない、対応している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、ご利用者様が出来る事はやって頂き、生活の中での役割を担って頂いている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	半年に一回のケアプラン更新時に「ご家族様からの要望」ということでお聞きし、ケアプランを作成している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様によっては、入居前に親交があったご近所さんやご友人などが面会に来られている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアの食席も、気の合うご利用者様同士になるように配慮している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	「退居者リスト」を用いてご家族様に定期的に手紙などを出している		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	定期的にあセスメント表を用いて、一人ひとりの要望の把握に努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談などでご本人様やご家族様から聞き取りを行ない、把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状況によって、1人ひとりにあった声かけを行ない、その方に合った生活スタイルを実践していただいている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアカンファレンスを開催し、ご利用者様の状態把握や今後のケアの方向性などを話し合っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランで用いているナンバリングを生活記録にも反映させている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在は行なっていないが、今後行えるように柔軟に対応していきたい		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	瀬谷区の区民活動センターで編み物やダンスなど様々な教室があり、ご利用者様がどの様にしたら参加出来るのか現在、模索中		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の往診の他、ご利用者様やご家族様の意向に沿って、外部受信にご家族様対応にて行われている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の医療連携看護師の出勤日に、ご利用者様の個々の様子を報告し、必要に応じて、往診医等に連絡し、対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーや薬剤情報等、必要な情報を提供し、退院時には介護サマリー等必要な情報を頂く他、必要に応じて入院先の主治医や看護師・ソーシャルワーカーとの面談を行ない、対応している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じて、ご家族様との話し合いや、地域の方との話し合いの場を持ち、必要に応じて医師等に報告している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、職員に周知徹底を図っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っているが、今後、地域の方にも参加して頂けるように、交渉中		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	動作一つ一つを解りやすくきちんと丁寧に説明する他、ご利用者様の名前を呼ぶ時には、「～様(さん)」と呼ぶ。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「～しませんか？」と話しかけ、ご本人様の意思を伺うようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活に支障のない範囲で就寝して頂き、起床は個別に対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後など、更衣する時の着衣の選択の他、個別に使いやすい化粧品などを使用している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話をしながら他のご利用者様と食事をされている他、下膳や食器拭きなどの家事援助を可能な範囲で参加して頂いている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食部の栄養士が、栄養のバランスを考えた献立を作成している。その他に嗜好にあわせた飲み物を準備している。また、食事や水分摂取量を確認・記録を行なっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力医療機関の歯科医師や歯科衛生士からの指導やアドバイスの下、個別に行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を確認して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方に合った排泄ケアを行なっている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に至った原因を探り、その方にあつた予防策を実践している他、必要に応じて往診医に相談し、下剤等を処方して頂いている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ご利用者様の好みに応じて入浴剤を使用し、楽しく入浴出来るように心がけている。また、ADLが自立の方は、一人で入浴して頂き、定期的に声かけを行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	使い慣れた寝具を使用してもらったり、ご利用者様1人ひとりの生活リズムを大切に、意思を尊重している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様の個別の服薬ファイルを開覧して把握に努めている他、気になる事は医師や薬剤師・医療連携看護師に相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中での、ご利用者様1人ひとりの役割を大切にしている他、趣味の再現の場を提供している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には行なえていないが、ご家族様の協力を得て、定期的に外出の機会を設けている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様からの意向もあり、常時の所持は行っていないが、買い物に行った時など必要時に、必要な金額をその都度預かり金より支出し、対応している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の要望により、必要時に電話をかけたり出来るように援助を行なったりしている他、手紙のやり取りを行なえるように支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁面は四季折々の飾り付けをご利用者様と職員が行っている。また、フロアや居室の温度管理についてはご利用者様の様子をみて、適宜調整している。また、フロアの照明についても直付の蛍光灯に替えた事により、明るくなっている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室への自由な出入りと、自由に他のご利用者様への居室の訪問を勧めている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇やソファ・テレビ等、使い慣れた物を入居時にお持ちいただいたりしているほか、家族写真や、ご利用者様自身で撮った写真などを飾っている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な箇所への手摺の設置の他、車椅子トイレの設置。壁の角やチェストの角など、転倒時に受傷リスクが高い箇所へのクッション材の設置。生活上、支障がない範囲での張り紙の設置		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		ホーム内での研修が行われていない。ホーム外研修への参加もない。介護職員としてスキルアップが必要。	研修を通して、知識を得る。	定期的にホーム内研修を行う。 ホーム外研修のお知らせを行う。	12ヶ月
2	18	外出、散歩等、外に出かけて頂く機会が少ない。四季を感じる工夫も必要。	外気に触れて頂く時間を作る。 ホーム内のレイアウトを季節にあったものに変更する。	外出、散歩に捉われず、駐車場を利用し、外気に触れて頂く。 プランターに花を植え季節を感じて頂く。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。